





# 津市 手づくり絵本教室・コンクール

「こども読書推進事業」では子どもの読書活動推進のための推進会議の他、津市手づくり絵本コンクール、手づくり絵本教室などの事業を行なっています。そこで、今回は事業の中の手づくり絵本コンクールや手づくり絵本教室の様子をお知らせします。



## ■手づくり絵本教室

自分だけの1冊の手づくりの絵本を作る過程を通して、本に対する興味や読書に対する関心を育てる目的で平成22年から実施しています。25年度は4ヶ所の会場で100名の募集に対して315名の応募がありました。

この講座では2日間の日程で1冊の絵本を作ります。津市手づくり絵本の会会員の皆さんに講師をお願いし、1日目は絵本の形づくりから始まります。まず表紙の部分を作る作業から始めるのですが、厚めのボール紙を表紙となる色紙に貼り付けていきます。このボール紙の位置を測る作業やきれいに糊付けしていく作業など子どもさん1人では難しい作業も親子で一緒にこなしていきました。色紙の端を内側に折り込ん



手づくり絵本教室(河芸会場)  
平成25年8月3・4日

だら表紙部分は完成です。次に中の用紙にお話を書いていきます。前もってお話を考え、ページ割りまで考えてきている子、ぶっつけ本番で何も考えてないという子、様々な子ども達の姿がありました。その日でできなくても次回の教室までに考えたらいという講師さんの言葉に少しホッとした表情を浮かべている子もいました。表紙や背表紙、裏表紙に貼る用紙の説明とサイズを計ったところで1日目は終了しました。会場によっては次回の講座まで1週間あるところもありましたが、ほとんどの会場が翌日の開催だったので、夜中までかかってお話を考えてきてくれた子もいました。



手づくり絵本教室(芸濃会場)  
平成25年8月10・11日

2日目は、お話の作成の続きから始まります。昨日の親御さんがメインとなる作業とうって変わり、子どもさんがメインの作業に移ります。色をぬったり、色紙を貼ったり、思い思いの内容で作っていました。途中からお話を書いた用紙を2ページずつ貼り合わせる作業に入ります。ページの裏どうしを貼り付け、見返しの用紙も貼り付けたら、見返しの用紙のもう片側を表紙の厚紙に貼り付けます。取れてこないように割り箸で背表紙の溝をは

さみ輪ゴムやクリップでとめて2日ほど寝かせて完成です。

夏休みの宿題や思い出にと参加していただきましたが、いい経験になったというお声をいただきとても嬉しく思いました。完成した絵本を手に写真におさまる子どもたちは充実した表情をしていました。親御さんの中には子ども1人でもここまで考え、できるんだとご自分のお子さんの力に改めて気づいた方もいらっしゃったようです。



手づくり絵本教室(津会場)  
平成25年8月2・9日



手づくり絵本教室(久居会場)  
平成25年7月24・25日

## ■津市手づくり絵本コンクール

絵本を通して子どもの読書活動を充実させ、豊かな情操を育むことを目的に読書の活動が活発なまちを創造する事業の一環として創作絵本のコンクールを実施し、今年で4回目となります。9月9日(月)～10月11日(金)まで作品を募集し、128点の応募があり、一般・児童の作品とも力作が集まりました。審査会は10月18日(金)に行われ、増田喜昭さん(四日市メリーゴランド店主)、鈴木敬子さん(装丁家)、つつみあれいさん(絵本作家)の3名に審査員をお願いしました。審査の結果、市長賞・議長賞・教育長賞(一般の部・子どもの部)各1作品ずつ、本と出会える街で賞(部門関係なく)5作品が選ばれました。11月2日(土)～4日(月・祝)には作品展を行い、応募いただいた全作品を展示しました。作品展には、537の方が来場いただき、作品を手に取りながら見ていただきました。また、4日には表彰式と作品鑑賞会も行い、入賞者の表彰と審査委員長の増田さんによる作品の講評もしていただきました。表彰式では入賞されたみなさんやご家族のみなさんも喜ばしい表情で写真におさまり、撮影されていました。その後の講評では出品者の方が作品について審査員に熱心に質問される姿がみられました。惜しくも入賞を逃された方もまた挑戦して書いていけばきっといい作品になると思うという増田さんの言葉が印象的でした。中には、その年の手づくり絵本コンクールが終わると次のコンクール用にお話を考えて参加してもらっている子もいるという声もお聞きし、嬉しく思いました。

市長賞の2作品については製本し、その他の入賞作品はデジタル化して各図書館や幼稚園・保育園・小・中学校に配布する予定です。

自分だけの1冊の絵本を作る絵本講座や、コンクールを通して、本のことや本を読むということに興味や関心を持ってくれる子どもが1人でも増えてくれたらと願います。



手づくり絵本作品展

# レファレンス事例集

**Q** 手紙で宛先に使う「～様」と「～殿」の使い分けを知りたい。

**A** 『新版 文章表現辞典』(東京堂出版 1983 R816)によると「敬語」の中の「二敬称」のところに「さま(様)はあらたまつた場合の形、また慣用語に見られるが、主として手紙のあて名に使う。将来は、公用文の「殿」も「様」に統一されることが望ましい。」とある。『注釈 公用文用字用語辞典』(新日本法規株式会社 1948 R816カ)には「殿」の用例として「○○殿」、「平2 2内告2 常用漢字」とあるだけと記載があった。『角川類語新辞典』(角川書店 1987 R813)によると、「様」は「人名などの下に付けて敬意を表す」言葉で「殿」は「姓名、職名に付けて敬意を表す」もので「手紙では、公用文の場合や改まった時には「殿」を使い、それ以外には普通「様」を使うとされているが、現在は圧倒的に「様」を使うことが多い」とある。

**Q** 津市美里地区の羯鼓踊り(かんこおどり・かっこおどり)の起源(興り)を知りたい。

**A** 『日本民俗大辞典(上)』(1999 吉川弘文館 R380)によると、かんこおどりは三重県各地で盆、虫送り、雨乞い、祭礼などの折に羯鼓ふうの大小さまざまな締め太鼓を腹につけた踊り子が両手の撥で打ちながら輪になって踊る風流踊りの一種とあった。『美里町史 下巻』(美里村 M231 1994)には「この踊りがどんな動機でいつごろ、どこからこの地へ導入されたかは不明であるが、衣裳や小道具などから推測して江戸中期以降に始められたものと思われる」とあった。

**Q** 小野寺梅丘(オノデラバイキュウ)という明治から大正時代の人物で、川喜田半泥子に絵を習った画家について知りたい。

**A** 『三重縣紳士録』(三重縣紳士録編纂會 1915 M280)によると小野寺澄夫(梅丘)は「愛知縣津島町字北口町、津市、明治二十二年十一月生」「澄夫君は梅丘と號す、津藩に生まれ」た人物。松坂の青木梅岳や尾張半田の山本梅莊に師事し、南画の奥義に達して一家を為した。大正博覧会などで受賞するとあった。

**Q** 「三重県」の名前の由来を知りたい。

**A** 『県史24 三重県の歴史』(山川出版社 2000 M201)によると、三重県は明治維新後、明治四(一八七一)年の廢藩置縣により安濃津県は津に県庁を置いた。翌五年に初代県參事(知事)により三重郡四日市に県庁を移転。その時、県名は三重郡にちなんで三重県と改められ、翌六年に県庁が津に戻っても県名はそのまま使われた。その他資料は『角川日本地名大辞典』(角川書店 1983 M290)、『新視点 三重県の歴史』(山川出版社 2013 M201マ)

## ～図書館員のおすすめの本～

『どろぼうがっこう ぜんいんだつごく』 かこ さとし/作・絵 偕成社

ロングセラー『どろぼうがっこう』のつづきのおはなしです。

くまさか先生と生徒たちは、刑務所からの脱獄の計画を立てます。泥棒なのにどこか憎めないどろぼうがっこうの生徒たちがうまく(?)脱獄できるのかときどきしながら、楽しんでください。

## ～図書館員のひとりごと／忘れ物～

プラスチックでできた小さな人形をしっかりと手に握って図書館に入ってみえた男の子。きっとお気に入りの人形なのでしょうね。しばらくたって絵本をもってカウンターに出されます。「ありがとう。バイバ～イ。」と言って帰っていきます。ふとその子が持っていたはずの人形が気に入り、先ほどまでいた絵本室に行くところ…。ありました。忘れ去られて下に転がっています。それを拾って駐車場まで追いかけて「はい。忘れ物。大事なものと違う?」「あ!」という顔をして人形を受け取りもう一度バイバイ。大事なものを忘れてしまうくらい面白い本を見つけることができたのかな?と思いながらこちらもバイバイ。

# 知ろう私たちの郷土

## 津藩士 村田佐十郎恒光① 伊勢湾測量と『測量稿』

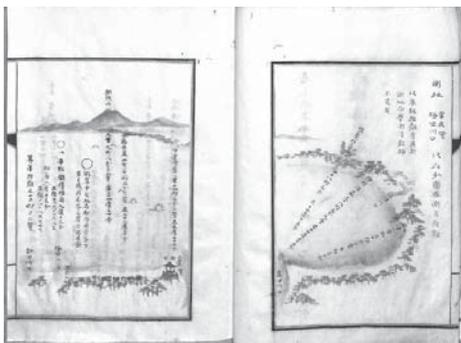
川上裕子

今回と次回は津藩士の村田佐十郎恒光<sup>つねみつ</sup>という人物について紹介したい。『国書人名事典』によると、生年未詳・明治三(1870)年没で、伊勢国を治めていた津藩の藩士であるとともに和算家でもあり、また測量術に長けた人物とされている。彼は測量術を祖父から、また、江戸にいた頃に当時和算家として有名であった長谷川寛<sup>ひろし</sup>から和算を学んだ。後に彼は津藩から測量術(または天文学)の教授として迎えられ、藩校「有造館」で教鞭をとった。

彼の業績としては①伊勢湾・志摩沿岸の測量と②和算関係の書籍の執筆の二つが挙げられるだろう。そこで、今回は①の伊勢湾・志摩沿岸の測量に関する資料を一つ紹介したい。

まずは測量についての逸話を一つ。当時は開国や通商条約締結を求めて外国船が日本近海を通過していた時期であった。それらの船は日本近海の測量も行い、沿岸図も作っており、伊勢湾もアメリカから測量許可を求められた。その時、警備を任されていた津藩が自藩で作成した沿岸の測量図を見せたところ、その地図の出来栄に驚いて願いを取り下げたという(『歴史散歩』より)。恒光が伊勢志摩周辺の測量を行ったのは弘化四(1847)年で、幕府の測量班とともに行っている。

では、なぜそのように正確な地図を作ることが出来たのだろうか。その理由を知ることが出来る資料として、当館所蔵の「有造館文庫」所収の『測量稿』(請求番号 有3549/L512)が挙げられる。(写真①)

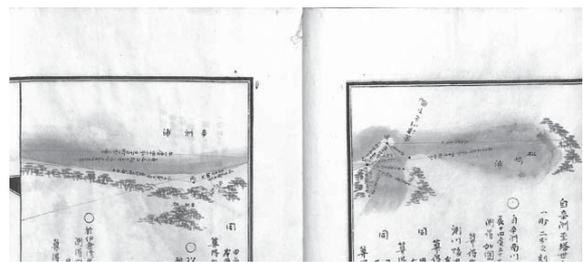


(写真①)

この資料は、村田恒光が行った伊勢志摩周辺の測量結果を嘉永六(1853)年に門人の池田定徳がまとめたものである。内容は彩色された海山の絵とともに、測量結果が記されている。この時の測量は津の海岸(贅崎灯台)を

中心に、伊勢の朝熊山や津の経ヶ峰、遠くは長野の駒ヶ岳まで、見渡せる範囲全てを対象に行われている。

初めに「測地 常夜燈 塔世川口以六分圓器測之距離」として基準となる一点(ここでは塔世川の常夜燈)からの距離を測量した結果が記されている。次に絵(図)に線(赤と黒)を引いて測量時に目標とした地点を結び、距離や方角・測量結果を記し、実際の測量方法について分かるような資料になっている(写真②)。更に海岸線の形を絵で記しており、当時の様子も伺い知ることが出来る。



(資料の一部分/写真②)

また、彼に測量術を教えた祖父の村田光隆<sup>こうりゅう</sup>も測量術を学んだ人であり、測量についての知識や方法(技術)についてまとめた『規矩要法』(「稲垣文庫」所収 稲L51-1)を残している。そこには当時の測量技術が多数記されている。

その祖父からの教えや和算の知識を利用して、彼は伊勢・志摩湾の測量を行い、『測量稿』にみるような正確な地図を作ることが出来たと思われる。

次回は②の和算関係について紹介したい。

### 主な参考文献

市古貞次[他]編『国書人名事典』四卷(岩波書店 平成10年)、歴史探訪会編纂『郷土の人物伝《津市と周辺の市町村》』(歴史探訪会 平成9年)、「津市民文化」編集委員会編『津市民文化』(旧)5(津市教育委員会 昭和53年)、津市教育委員会文化課編『歴史散歩 - 総集編 -』(津市 平成11年)、梅原三千・西田重嗣著『津市史』一卷(津市役所 昭和34年)



# 休館日・開館時間などの **ご 案 内**

※下記の休館日のほかに特別整理期間(年1回、14日以内)や、臨時に休館することがあります。詳しくは、図書館カレンダー、津市図書館ホームページなどをご覧ください。



携帯電話QRコード

津市図書館ホームページ <http://www.library.city.tsu.mie.jp>  
携帯版ホームページ <http://www.library.city.tsu.mie.jp>

館 名	開館時間	休館日
<b>津図書館</b> ☎229-3321 〒514-8611 西丸之内23-1 津リージョンプラザ内	平日 9:00～19:00 土・日曜日、祝・休日 9:00～17:00	火曜日 毎月最終木曜日 年末年始(12月28日～1月4日)
<b>ポルタひさいふれあい図書室</b> ☎254-0464 〒514-1118 久居新町3006 ポルタひさいふれあいセンター内	平日 10:00～21:00 土・日曜日、祝・休日 10:00～18:00	
<b>芸濃図書館</b> ☎265-6004 〒514-2211 芸濃町椋本6824 芸濃総合文化センター内	9:00～17:00	
<b>安濃図書館</b> ☎268-5822 〒514-2326 安濃町東観音寺418 サンヒルズ安濃内	10:00～18:00	
<b>久居ふるさと文学館</b> ☎254-0011 〒514-1136 久居東鷹跡町2-3	平日 9:00～18:00 土・日曜日・祝・休日 9:00～17:00	
<b>河芸図書館</b> ☎245-5300 〒510-0314 河芸町浜田782	10:00～18:00	
<b>美里図書館</b> ☎279-8122 〒514-2113 美里町三郷51-3 美里文化センター内	9:00～17:00	
<b>きらめき図書館</b> ☎292-4191 〒514-0314 香良洲町2167 サンデルタ香良洲内	9:00～17:00 (7・8月の平日は 18:00まで)	
<b>一志図書館</b> ☎295-0116 〒515-2521 一志町井関1792 とことめの里一志内	10:00～18:00 (7・8月の平日は 19:00まで)	
<b>うぐいす図書館</b> ☎262-5000 〒515-2602 白山町二本木1139-2 白山総合文化センター内	平日 10:00～18:00 土・日曜日・祝・休日 9:00～17:00	
<b>美杉図書室</b> ☎272-8092 〒515-3421 美杉町八知5580-2 美杉総合文化センター内	9:00～17:00	

**本の返却は期限内に**

ようこそ図書館へ 第16号

発行日/平成26年4月1日 編集及び発行/津市教育委員会 津市津図書館  
三重県津市西丸之内23番1号 津リージョンプラザ内 ☎(059)229-3321